

森林やまがた

No.160

2015.11

山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



オープニングセレモニー 丸太カット



子ども青空木工教室



まつりを盛り上げたステージイベント



木工クラフト体験

目次

第25回山形県林業まつり	2
やまがた美しい森林づくり推進大会開催	3
来年4月「山形県立農林大学校」に学校名が変更され 新たに「林業経営学科」が開講！	4
山形県内に「林業死亡労働災害多発警報」発令！	5
県産認証材「やまがたの木」普及・利用促進事業 補助金の追加が決定しました！	6
おきたま森の感謝祭2015を開催	6
やまがた緑環境税評価・検証の実施状況について	7
みどりのページ 東北・北海道地区緑化推進協議会の総会が 開催されました	8
緑の少年団による自然環境活動と緑の募金活動	9
山形県森林組合連合会の「人材育成の取組み」	10
普及情報 森林作業道作設オペレーター育成強化研修について	11
森の人紹介 舟山勇さん・小関孝尚さん	12
やまがた絆の森プロジェクトレポート	13
村山地域14市町の森づくりの取組み	14
森林管理道「黒森会沢線」全線開通	15
南陽市文化会館(木造公共施設)オープン	16
山形県の古木・名木、公共木造施設	17
丸太価格・製材品価格の推移	18

第25回山形県林業まつり 今年も大盛況でした!



県民の皆様には森林の働きや木材の良さ、森の恵みのすばらしさを実感し、体験していただくため、第二十五回山形県林業まつりが十月十七・十八日の二日間、天童市の山形県総合運動公園駐車場内特設会場において開催されました。

今年も「山形県農林水産祭」として「山形県林業まつり」緑と水と木の祭典」と「秋の食彩まつり」が同時に開催され、各ブースでは県産木製品や県産きのこの展示販売のほか、子どもから大人まで参加できる楽しいイベントが行われました。



今年は、二日間とも秋晴れに恵まれ、来場者数は三万八千人と大盛況となりました。

十七日正午から、「農林水産祭合同オープニングセレモニー」として細谷副知事による開会宣言や主催者らによる丸太カットが行われました。

その後、村山産業高校又新連の若々しく力強い「徳内ばやし」や、今年度初参加となる酒田きやり保存会の「酒田きやり唄」が披露され、会場をおおいに盛り上げていただきました。

さらに、「NPOやまがたの木・住環境共生ネットワーク」による上棟



式と祝餅まきには多くの来場者が集まり、にぎわいをみせていました。

また、恒例の丸太切り競争や幼児積み木競争のほか、今年は長井市ケンプロジェクトによるケン玉パフオーマンスも行われ、楽しみながら木に触れ合う光景が見られました。

山形県の「県民みんなで森づくりコーナー」では、やまがた緑環境税による整備状況がパネルで紹介されるとともに、自宅で苗木を育てて森へ返す「森のホームステイ」体験等が行われ、来場者の皆様に山形県の豊かな森林を守り、育てることの重要性を実感していただくことができました。

また、木造建築のブースでは、県

産木材を使用した迫力のある住宅構造躯体が多数展示され、来場者の皆様に直接見て触れてもらうことで、木のある暮らしの良さを身近に感じていただきました。

その他にも、「やまがた森林ノミクス」などのパネル展示や、旬のきのこを使ったおいしい山形の食品販売、木工クラフトやきのこ植菌体験など、県産木材をはじめとする「森の恵み」を実感していただける機会になりました。

二日目のステージでは、東日本大震災の被災地の復興を祈って、福島県川俣町の「山木屋太鼓」に出演していただきました。威勢のよい掛け声と若さあふれる力強い太鼓の音に多くの来場者が惹きつけられ、伝統文化を守り続ける強い気持ちと迫力が伝わる、すばらしいステージとなりました。

今年で二十五回目の開催となった林業まつりは、毎回多くの方々にお願いいただける県内有数のイベントとして定着してきました。今後とも、県民の皆様には森林の重要性についてご理解いただくとともに、木材の良さや森の恵みを実感していただけるよう、関係者の皆様と運営してまいりますので、皆さまの御協力をよろしくお願いいたします。〔県林業振興課〕

やまがた美しい森林づくり推進大会開催

(第62回山形県林材業年次大会)



大会の状況

十月十七日(土)、山形県総合運動公園において「やまがた美しい森林づくり推進大会」(第六十二回山形県林材業年次大会)が、約二〇〇名の参加者を得て開催されました。

◆大会

佐藤大会副会長の開会の言葉で始まり、細野大会会長の主催者挨拶、各林業団体から寄せられた多くの要望・提案事項の主旨説明、大会決議の提案と進められました。提案事項については、阿部大会副会長からその概要について一括して説明があり、満場一致で原案どおり承認されました。

また、安部大会副会長が大会決議を提案し、提案への取組み、予算確保要請について満場一致で決

議されました。

続いて、細谷副知事(山形県知事代理)、赤堀森林利用課長(林野庁長官代理)、近藤洋介衆議院議員、野川県議会議長から祝辞があり、大会は盛会裏に終了しました。

◆大会スローガン

・「やまがた森林ノミクス」の推進による林業・木材産業の成長産業化と地方創生
・災害に強い多様で健全な森林づくりの推進と東日本大震災からの可及的速やかな復旧・復興

◆提案事項

多くの林業団体から提案された森林・林業・木材産業全般に亘る諸課題から、重点課題を取り上げた内容となっており、次のとおりです。

一 「やまがた森林ノミクス」の推進

地域の森林資源を活用する「やまがた森林ノミクス」を推進し、豊かで活力ある地域社会を構築するため、次の提案がありました。

(一) 森林境界の明確化、並びに施業の集約化・機械化、林道・作業道など高密度路網の早急かつ計画的な推進
(二) 森林資源の循環利用を促進するための「再造林」に対する安定的な予算の確保と支援の強化
(三) 県立農林大学校への林業経営学科設置等による新たな担い手の育成とハー

ド・ソフト両面における教育環境整備への支援
(四) フォレストスターや森林施業プランナー、路網作設オペレーター、フォレストワーカー・リーダー・

マネージャー等森林施業を担う人材の早急かつ計画的な育成
(五) 地域林業の担い手である森林組合や林業事業体等の育成強化
(六) 「公共建築物等における木材の利用促進に関する基本方針」に基づく公共施設等の木造・木質化の推進
(七) 県産認証制度を活用した「総合的な住宅対策」の拡充、木造建築技術者の育成強化による木造建築物の建設促進
(八) 木造加工流通施設、木質バイオマスエネルギー供給施設等整備への支援強化
(九) 特用林産物等の生産振興による山村の活性化
(十) これらを推進するための「森林整備加速化・林業再生対策」、「森林・林業再生基盤づくり交付金」等の継続・拡充

二 災害に強い多様で健全な森林づくりの推進

森林の持つ多面的機能を発揮させ、地球温暖化の防止と安全で快適な県土づくりを進めるため、次の提案がありました。

(一) 森林吸収源対策を着実に推進するための安定的、恒久的な財源の確保
(二) 間伐や主伐後の再造林等の推進に

よる循環型森林施業の促進
(三) 災害に強い森林づくりを進めるための治山・林道・造林事業の計画的・積極的な推進
(四) 「やまがた緑環境税」による荒廃森林整備の促進
(五) ナラ枯れや松くい虫など森林病害虫対策の推進
(六) 公益的機能の高い森林に対する保安林の計画的配備
(七) 水資源・森林保全のための森林売買時における許可制度の創設などの法規制の強化
(八) 林業公社による森林整備のための地方財政及び金融措置を含む支援策の強化
(九) 企業等の社会貢献活動や県民参加による森づくりの推進
(十) 森林資源の利活用や健全な森林づくりを促進する新技術の開発

三 東日本大震災からの可及的速やかな復旧・復興

東日本大震災による被災地の速やかな復旧・復興はもとより、東北全体の復興を促進するため、次の提案がありました。

(一) 被災した森林・林業・木材産業の速やかな復旧・復興
(二) 住宅や土木分野等の復興事業における木材の活用促進

◆おわりに

本大会で採択された提案事項については、国・県等に提案・要望してまいります。
〔山形県森林協会〕

来年四月

「山形県立農林大学校」に学校名が変更され新たに「林業経営学科」が開講!

◆はじめに

平成二十七年十月九日、山形県立農業大学校条例及び山形県立農業大学校条例施行規則の一部が改正され、平成二十八年四月一日から、学校名を「山形県立農業大学校」から「山形県立農林大学校」に改称し、新たに「林業経営学科」を開講します。



山形県立農業大学校の全景

◆経緯について

山形県では、豊かな森林資源を「森のエネルギー」、「森の恵み」として活かし、林業振興と地域の活性化を図る「やまがた森林ノミクス」を推進しています。この取組みを支える林業の次世代リーダーを育成するため、林業を学べる公立の専修学校としては東北で初（全国で七番目）となる「林業経営学科」を新設することとしました。

◆本県林業を支える多様な人材

林業経営学科では、①森林・林業に関する高い専門性と幅広い知識・技術を備えた人材、②地域の森林経営を長期的な視点でプランニングできる経営能力を備えた人材、等の資質を持ち合わせた実践的な人材の育成を目指しています。

将来的には、①統括的な現場管理責任者、②専門知識・技術を持つ森林施業プランナー、③林業事業体の経営企画・運営部門の責任者、④自治体の林業振興の企画・立案担当者

など、幅広い分野で林業の中核を担い、地域の雇用創出・若者の県内定着への効果を期待しています。

◆林業経営学科の特長

林業経営学科のカリキュラムでは、実践的な実習や講義により、森林・林業、木材加工・建築・家具などに関する幅広い知識・技術や、地域の森林を効率的で安定的に利用する方法等を計画できる経営能力を身に付けることとしています。



高性能林業機械による造材作業

それに加え、高性能林業機械の操作など、仕事に活かせる実践的な資格等も取得できるカリキュラムとなっています。

また、卒業後は林業経営学科で学んだ知識・技術を活かして、森林組合や製材工場などへの就業を目指し、インターシップ等によりサポートするほか、四年制大学への編入（進学）の道も開かれています。



チェーンソーの操作研修の様子

◆学生募集について

平成二十八年年度入校者選抜の日程は、推薦入校者選抜十一月十三日、一般入校者選抜（前期十二月七日、後期三月十四日）です。

詳しくは農業大学校HPをご覧ください。

〔山形県立農業大学校〕

山形県内に

9月1日から11月30日までの3か月間

「林業死亡労働災害多発警報」発令!

山形県内では、林業における死亡労働災害が本年2月に発生したほか、6、7月にも連続発生し、3名の尊い生命が失われ、極めて憂慮すべき事態となっています。

この緊急事態を受け、林業・木材製造業労働災害防止協会（以下「林災防」という。）は、8月26日に林災防山形県支部に対して「林業死亡労働災害多発警報（9月1日から11月30日までの3か月間）」を発令しました。

林災防山形県支部では、発令期間中、緊急集団指導や現場安全パトロール等を実施するほか、林業事業主に対して、自主安全パトロールや一斉自主点検の実施等を要請しています。

林業関係者の皆さまには、下記の事項に御協力をお願いします。

1 林業労働災害再発防止対策

■事業主の取組事項

- (1) 林業死亡労働災害再発防止のための緊急集団指導への出席
- (2) 経営トップとしてリーダーシップを発揮した自主安全パトロールと一斉自主点検の実施
- (3) 「林業・木材製造業労働災害防止規程」の遵守及び着実な実践
- (4) 警報発令期間終了後のフォローアップ

■労働者の取組事項

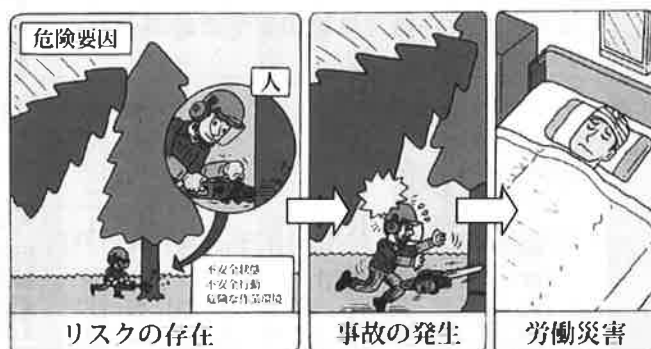
- (1) 事業主の指示に従い、安全に配慮した作業手順の遵守及び着実な実践
- (2) 後記2の積極的な実践

2 重点取組課題

- (1) 伐木作業における安全な作業手順（伐倒の基本、指差呼称の励行等）の遵守
- (2) 「かかり木の処理の作業における労働災害防止のためのガイドライン」に基づく措置の徹底
- (3) 斜面等での移動や作業時における墜落・転落防止措置の徹底
- (4) 「リスクアセスメント実践マニュアル」[林業版]の着実な実施
- (5) 日々の作業開始前の危険予知活動（KY）の励行

危険要因の洗い出しは、リスクアセスメントの出発点です。

●ヒヤリハット、安全パトロール、災害事例、KY活動報告などから広く洗い出して整理しましょう。



“災害ゼロ”から
“危険ゼロ”へ



(県林業振興課)
(林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部)

大好評！県産認証材「やまがたの木」普及・利用促進事業 補助金の追加が決定しました！

県産材を使用した住宅に補助を行う「県産認証材「やまがたの木」普及・利用促進事業」は、好評につき当初の募集戸数を上回り、追加募集することとなりましたのでお知らせします。

◆追加募集の内容

本事業で当初予定していた補助件数八十五戸分に対し、受付から半年で予定補助件数を大きく上回る申請がありました。今後も申請件数が伸びる見込みがありますので、九月補正予算で九十八戸分の追加が決まりました。

◆事業概要

県産木材（やまがた県産木材利用センターが実施する『「やまがたの木」認証制度』により産地証明された木材又は認証された合板及び集成材）を使用して住宅を建築する方に補助金を交付します。

◆補助金の額

定額十五万円（ただし、県産木材の使用割合が一〇〇%以上の場合は、定額二十万円）

◆他の補助金との併用について

「山形の家づくり利子補給金交付要綱」に基づき、年度に関わらず県の利子補給制度を受けている場合、又は受けようとする場合は、併用できません。

◆詳細については、「山形県住宅情報総合サイト【タテツーカーナ】のホームページ」をご覧ください。
<http://tatekana.pref.yamagata.jp/>

↓支援策情報↓新築住宅支援↓新築住宅支援／やまがたの木普及・利用促進事業
〔県林業振興課〕



「県産材を使用した住宅」

おきたま森の感謝祭2015を開催

「おきたま森の感謝祭2015」が九月十九日（土）に爽やかな秋空の下、川西町「川西ダリア園」を会場に開催されましたので紹介します。この感謝祭は、置賜の豊かな自然に感謝し、県民参加の森づくりを推進することを目的に、県と川西町と置賜林業推進協議会が主催し、今年で十一回目になります。



ポスターコンクール表彰

式典では、地元犬川小学校の太鼓演奏によるアトラクションを皮切りに、地域の森林・林業に功績があった方や、緑化標語・ポスターコンクールで入選された方の表彰、サルスベリの代表者植樹、施肥・下刈の森づくり活動が行われました。

更に、会場周辺では、高性能林業機械の実演やサザンカの苗木の緑のプレゼント、美味しいキノコ汁の振る舞い、大迫力のチェインソーアートの実演など、盛り沢山のイベントを準備。また、①薪・ペレットストーブ、地材地住のPR、国有林関係の展示コーナー②置賜農業高校の川西町特産の紅大豆を使ったお菓子の販売③木工体験やネイチャーゲームなど楽しい企画で、会場は大いに盛り上がりました。



体験コーナー

こうしたイベントを活用し、多くの県民の皆様に森づくりの大切さを知っていただくよう、今後とも普及啓発に努めていきたいと考えております。〔置賜総合支庁森林整備課〕

やまがた緑環境税評価・検証の実施状況について

◆評価・検証の進捗状況

六月十七日に「やまがた緑環境税活用事業評価・検証プロジェクトチーム」を立ち上げ、検証作業の進め方やアンケート調査の内容等について検討を進めてきました。九月二十八日の第二回プロジェクトチーム会議では①評価検証の進捗状況と今後の計画、②各種アンケート調査の中間報告、③やまがた緑環境税活用事業の課題の整理及び検討の方向性について議論しました。



第2回評価・検証プロジェクトチーム会議

◆評価・検証のための各種調査

評価・検証を進めるに当たり、森林調査やアンケート調査、聞き取り調査等を行っています。

○森林調査

森林整備前後の森林の状況変化や植生・土壌の変化の解析等により森林整備の評価を行っています。十月下旬には中間結果を取りまとめる予定です。

○アンケート調査

県民三千人を対象とした県政アンケート調査のほか、県内企業、個人へのアンケート調査を行っています。個人アンケートでは三千四百件、企業アンケートでは八百件を目標としています。

○聞き取り調査

市町村や森林組合の担当者の皆様、県民の皆様との意見交換会等を行い、意見を集約します。

◆今後の評価・検証計画

事務局では、第二回プロジェクトチーム会議で指摘いただいた内容と各種の調査結果を踏まえ、これまでの事業の成果及び課題の整理、現状の把握に関する取りまとめを行な

い、十二月下旬に予定している第三回プロジェクトチーム会議でその内容について検討します。その結果を踏まえて、一月下旬に開催予定の「第三回やまがた緑県民会議」で協議していただきます。

その後、三月上旬に予定している第四回プロジェクトチーム会議において「評価・検証中間報告書(案)」の原案を作成し、今年度最終となる三月下旬予定の「第四回やまがた緑県民会議」でその内容について協議いただくこととしています。

◆ご意見をお聞かせください

今回の見直しにあたっては、できるだけ多くの県民の皆様の御意見を伺うため、インターネットを活用したアンケート調査なども実施しています。また、十一月には各地域で意見交換会を開催します。

○アンケート調査

インターネットによるアンケート調査のほか、各市町村窓口や各種イベント等でも調査を行う予定です。ぜひ皆様の御協力をお願いします。

○意見交換会

各総合支庁において、森づくり意見交換会を開催します。やまがた緑環境税に関する皆様の御意見をお聞かせください。

《各総合支庁での意見交換会実施予定》

日 時	会 場
11月18日 (水) 午後6時	置賜総合支庁講堂
11月19日 (木) 午後6時	村山総合支庁講堂
11月25日 (水) 午後6時	庄内総合支庁講堂
11月26日 (木) 午後6時	最上総合支庁講堂

〔県みどり自然課〕

アンケートはこちらから



やまがた緑環境税 アンケート
で検索!!

やまがた緑環境税に関する
アンケート実施中!



みどりのページ

東北・北海道地区緑化推進協議会の総会が開催されました

東北・北海道地区の緑化推進委員会の総会が、平成二十七年十月一日（木）に「蔵王四季のホテル」を会場に開催されました。この総会は、東北及び北海道の緑化推進委員会の情報交換等の場として毎年持ち回りで開催されているものであり、今年度は本県が当番県となっており、各道・県と国土緑化推進機構の担当者も招いて開催したものです。協議に先立って緑化功労者の表彰式が行われ、国土緑化運動に永年にわたり貢献し、その功績が顕著であった個人や団体に感謝状と表彰状が授与されました。本県からは小国町の山口英彦氏を選ばれ、公益社団法人国土緑化推進機構の石井常務理事から感謝状が、東北・北海道地区緑化推進協議会会長である当財団の細野武司理事長から表彰状が授与されました。

山口氏は、小国町森林組合の代表理事組合長を務められ、集落単位での山菜やキノコ等の共同出荷体制の構築や、「森の恵み直売所」の開設、都市部での定期的な「森の市」の開催

等、小国町の特用林産の普及や産業振興に多くの恩恵をもたらしました。また、山形県みどり推進機構の運営協議会会長や置賜公益の森づくり協議会委員長を歴任し、森林・林業の持つ魅力や大切さを幅広く県民に伝える活動に貢献するなど、その功績が高く評価されました。

◆緑化功労者受賞者

- 北海道 吉田昭八氏
- 北海道 石神幸男氏
- 青森県 田中直喜氏
- 岩手県 佐藤崇氏
- 宮城県 菅野浩一氏
- 秋田県 森吉山ブナ林再生応援隊
- 山形県 山口英彦氏
- 福島県 村上裕章氏



受賞者のみなさん

表彰行事に引き続き総会が開催され、緑の募金や緑の少年団の育成等について各道・県が抱えている課題などを共有しあい、募金額を増やすための取組みや緑の少年団活動の活性化策などについて協議しました。また、東日本大震災の被災地域における海岸防災林の再生に向けた取り組みや、各道・県独自の緑の募金のPR活動方法等が紹介され、有意義な会議となりました。



熱心な協議が行われた総会の様子

翌日は蔵王坊平高原を訪れ、クアオルト健康ウォーキングを体験してもらいました。クアオルト健康ウォーキングとは、ドイツのクアオルト（療養地・健康保養地）で治療とし

ても実施されている気候性地形療法の手法を用いたウォーキングで、医学的手法を基礎として、病氣予防や健康増進のために行う健康づくりです。爆弾低気圧の影響で、当日の朝方まで暴風雨に見舞われていましたが、坊平高原に着く頃には雨も上がり、途中で心拍数を計ったり、坊平高原の自然を解説してもらいながら、色づきはじめて初秋の坊平高原をゆったりと散策し、クアオルト健康ウォーキングを楽しみました。



クアオルト健康ウォーキングの様子

今回の協議会では、東北・北海道地区の緑化推進担当者とは有意義な情報交換を行うことができ、次年度開催県の秋田県にバトンを渡すことができました。



みどりのページ



「穴の中はひんやりするよ〜」

はじめに、天童市のジャガラモガラを訪れ、冷たい風が吹き上げてくる風穴に手を入れたりしながら、自然の不思議さを肌で感じ取ることができました。また、この風穴からの冷気により、標高五百五十メートル

期日 平成二十七年九月二十六日
場所 天童市ジャガラモガラ

山形県総合運動公園

山形県みどり推進機構では、緑の少年団による自然体験活動と緑の募金活動を組み合わせた事業を行っており、この日は、高島町の二井宿みどりの少年団員十三名がこの活動に取り組みました。

緑の少年団による自然体験活動と緑の募金活動

ほどのジャガラモガラの植生が千四百メートルの高山と同じような亜高山性の植物分布になっていることなどを学びました。

午後からは「みちのくダービー」の開催で賑わうNDソフトスタジアム周辺で緑の募金活動を行いました。二井宿の子供たちの元気な募金の呼び掛けにより、たくさんの善意が寄せられました。



「緑の募金にご協力、ありがとうございます〜す」

募金の後にはモンテディオ山形対ベガルタ仙台戦を観戦し、J1残留を願って大きな声援を送っていました。

この活動を通して、自然や緑を大切にできる心や社会奉仕の精神を育てることができたと思います。

〔公財〕山形県みどり推進機構

緑の募金に御協力いただいた企業・団体のみなさま (H27.8.1~9.30)

〔山形県みどり推進機構取扱い分〕

(有)青木建材、曙ブレーキ山形製造(株)、(株)アサヒ技術、アジア航測(株)山形営業所、(株)安部組、荒生木材(有)、有賀建設(株)、(有)アルファ設計、五十嵐工業(株)、(有)伊東農園、(有)今川自動車商会、(株)イヨテクニカル、(有)入野商会、(有)エコファーム長井、(株)オオバ、尾形興業(有)、奥山建設工業(株)、(株)カキザキ、(株)柿崎工務所、勝川建設(株)、(株)金沢総合コンサルタンツ、上浅川堰組合、(株)環境管理センター、(株)菊地建設、北日本特殊イサベラ建設(株)、(有)協友門間商事、工藤石油店、(株)工藤測量設計、(有)くまがい、小白川建設(株)、(有)後藤クリーン商会、(有)後藤竹材店、コマツ山形(株)、(株)コヤマ、(株)斎藤板金工業所、(株)ザオー測量設計、(株)寒河江技術コンサルタント、鮭川工業(株)、(株)佐藤組、(有)山栄測量設計、(有)三幸園、(株)三和、(株)三和技術コンサルタント、山和建設(株)、(株)ジャワ商会、(株)十字電子、(有)庄司林業、城東機械製造(株)、庄内赤川土地改良区、(株)庄内測量設計舎、城北電気工事(株)、白岩土木建築(株)、伸栄伝導機工(株)、新和設計(株)、(株)菅野測量設計、(株)菅原工務店、すずき看板、(株)鈴木久測量設計事務所、(株)鈴木測量事務所、スズキハイテック(株)、精英堂印刷(株)、ソック(株)、(株)第一電機、(株)大栄、(株)大商金山牧場、(株)ダイユー、(株)大和エンジニア、高島電機(株)、(株)高良山形営業所、(株)丹野、鶴岡ガス(株)、鶴岡市農業協同組合、天神森調剤薬局、(株)でん六、(株)東北工材、(有)東北紙商、(株)東北消防設備、(株)トーホー、(株)内外ビルクリーン、(株)永田プロダクツ、(株)ナルセ、農林中央金庫山形支店、ハイメカ(株)、パスコ(株)、藤庭園、(株)フジミ、(株)双葉建設コンサルタント、プッシュ建設(株)、文化清掃(有)、(株)北都測量設計、マックル(株)、(株)丸江製作所、(株)マルカ、(株)マルコウ環境、ミクロンメタル(株)、(株)ムラヤマ、(株)メカニック、最上川土地改良区、(株)最上振興、(有)安野測量事務所、山形いすゞ自動車(株)、(株)山形銀行県庁支店、山形県産業技術振興機構、山形県森林土木建設業協会、山形県設備設計事務所協会、山形県測量設計業協会、山形県畜産協会、山形県土地改良事業団体連合会、山形酸素(株)、山形信用金庫、(株)山形道路、山形富士電機(株)、(株)山形ミートランド、山形緑十字(株)、山新建装(株)、山田建設(株)、(株)ユアシス、(株)ライナー、ロータス山形(株)

(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました。

山形県森林組合連合会の「人材育成の取組み」

◆はじめに

森林資源は、循環利用を可能とする段階に入りつつある中で、森林を適正に管理するとともに、安全で確実な技術力による低コスト施業が必要となります。加えて、森林所有者一人あたりの所有面積が小さく、面的な森林管理のためには、小規模森林所有者を含めた施業の集約化が前提となります。

中でも、森林所有者に代わって地域の森林を管理する重要な役割を担う「森林施業プランナー」と森林の作業に精通するとともに安全作業に徹して実際の作業にあたる「現場技術者」との連携により施業がなされることが、将来の目標林型の実現のために有効とされております。

認定森林施業プランナー数は現在十三名ですが、これから本格的な利用期を迎える本県の林業においては不足している実態にあります。

一方、森林作業従事者は年々減少する中において、「緑の雇用」現場技能者育成対策事業により、新規林業従事者を育成する事業が必要とされております。

◆「認定森林施業プランナー」の育成

森林施業プランナー協会が認定する山形県森林施業プランナー育成研修は、本会が実施主体となり、特別一次試験の受験資格要件とするカリキュラムに沿って、七月から八月の四日間にかけて当研修を大蔵村及び真室川町を主会場に実施しました。当研修は昨年引き続き二回目の開催となりました。

科目は、「提案型集約化施業の意義」、「森林経営計画の作成」、「目標林型と育林技術」、「間伐作業システムと林業機械」、「施業団地の設計」、「路網開設」、「提案書作成」、「利用間伐のコスト把握分析」及び「安全管理」等です。その内容は、講義及び現地における調査やグループワークを通して、試験及びプランナー活動に必要な事項で構成されております。

四日間の日程修了者は十三人で、来年三月に予定されている特別一次試験、実務経験を経て特別二次試験合格を持って森林施業プランナーの認定登録されることとなります。

一方、特別二次試験は東日本ブロックとして温海町森林組合において

開催され、本県からは、四名が受験し、合格発表が待たれます。

◆「緑の雇用」現場技能者育成対策事業の実施

フォレストワーカー(林業作業士)は、林業作業に必要な森林林業の基本的な知識、技術、技能を取得し安全に作業を行う者としており、その育成には、長期を要することとなります。

この事業は、本会が全国森林組合連合会から受託し実施するもので、三年間で林業の作業に必要な資格や知識及び技術を身につけることをねらいとしております。

研修生は、当初一年生二六人、二年生十一人、三年生十一人の合計四八人となりました。

助成対象は、森林組合を含めた林業事業者が、新規に林業従事者を雇用し、その育成を行うこととしており、集合研修と実践研修(OJT研修)の二つから成り立っております。

集合研修は、山形県森林協会と林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部に委託して実施しております。森林・林業の知識や理論、林業作業を行う際に必要となる資格取得、及び種々の林業作業を安全に行うためのやり方などが内容となっております。

ます。一方、実践研修は、各事業者の現場で行う作業を研修と位置付けし、技術を身につけることをねらいとしております。



緑の雇用研修状況

◆おわりに

県内では、これから大型木材加工施設や木質バイオマス発電施設等の稼働に伴い、木材の需要が増大することが必至となっており、その供給は森林組合系統や林業事業者の使命とされております。木材の大量安定供給を担うために、森林施業プランナーや森林作業士に対する期待が高まっております。

〔山形県森林組合連合会〕

森林作業道作設オペレーター育成強化研修(Ⅱ)

◆はじめに

山形県では、地域の豊かな森林資源を「森のエネルギー」、「森の恵み」として活かし、オール山形で林業の振興、ひいては地域の新たな雇用と持続可能な地域経済の基盤づくりを進める「やまがた森林ノミクス」に各地域で取り組んでおります。

このため、「植える・育てる・収穫する・再造林する」という「森林の循環利用」が効率的に進むよう、地域にあった森林施業の体系を構築し、路網などの生産基盤の整備を行い、施業の集約化や低コスト作業システムを確立して、持続可能な林業経営を推進するために必要な人材育成を行うことが緊急の課題となっております。県では平成二十一年度以降、一般社団法人フォレストサーベイとの共催による森林作業道作設オペレーター研修等を実施しており、平成二十五年まで三十六名が修了しております。

◆事業の目的

利用期を迎えている森林資源の循環的な利用を図り、森林の公益的機能の発揮と持続的な林業経営を進めて行くには、地域の状況に合った林業機械や作業システムを効率的に運用できる森林作業道の作設が必要で

す。そのためには簡易で丈夫な森林作業道の作設技術を有するオペレーターの育成強化を図る必要があります。急傾斜地や脆弱地での森林作業道作設に必要な技術力の向上を目的に研修を実施しました。

◆研修の内容

研修は平成二十一年度から平成二十五年まで実施された初級研修を修了した者または、一定以上の作業道作設経験と技術を有した者で基本的な土工技術を習得して、更に技術を向上させたいとする方を対象に、現地において高度な土工の実習を行うもので、研修内容は以下のとおりです。①段切・段盛の実習、②現地地形、土質等に応じた丸太組工・洗越等の応用土工の実習、③急傾斜地や脆弱地等での作業道づくり、④計画路線の踏査とその路線選定についての指導、⑤研修実施内容、実務経験等に基づく作設に関する意見交換の実施、⑥森林作業道の趣旨、基

本土工、安全作業のための遵守事項等を座学・実習による修得。

研修場所は酒田市山寺字見初沢地の林業公社造林地で現地実習を、座学等の室内研修を酒田市松嶺コミュニティセンターにて受講生五名で実施しました。



◆アンケートから

研修最終日に受講生から研修についてのアンケートを提出していただいておりますので、その中からいくつかを紹介いたします。

Q1 今回の研修全体について、A ①わかりやすく良かった、②少人数なのでまとまりが良かった、③初級で学べなかったことをいろいろ習得できた。



Q2 研修の成果について、A 受講生全員が「向上した」または「大変向上した」と回答しており、理由としては、①行ったことのない施工方法を学べた、②いろいろな施工方法が学べたので一度試したい、③他のオペレーターの方と意見交換できた。Q3 技術力向上のため今後更に研修を受講したいか。A 受講生全員が受講したいと回答しており、今後技術研修の実施を希望していることがわかりました。

◆今後について

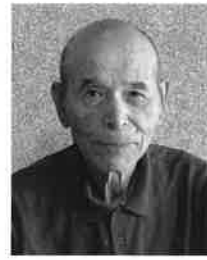
研修は平成二十八年度も実施を予定しております。関心のある方は山形県森林研究研修センター普及担当（〇二三七―八四―四三〇一）までお問合せください。

〔森林研究研修センター〕

森の人紹介

地域特産物マイスター

林業士 舟山 勇さん



昭和五十五年
度山形県
林業士(第一期生)に認定
された舟山勇

さん(小国町)を紹介します。

舟山さんは、昭和三十四年から林業と種苗生産に従事し、優良な人工林を造成しながら、特用林産に着眼し、生産技術の開発や優良品種の選抜、地域における特用林産物の森林組合への共同集出荷体制の確立やクリとアケビのふるさと便など、需要拡大に大きく貢献してきました。

また、研修会や視察などの積極的な受け入れや生産意欲のある人へのワラビ種根の提供など生産技術の普及指導にも関わり、小国町をワラビ生産地へと導いた方でもあります。

山林経営の課題である短期的な収入については、クリやキリの栽培と農業との複合経営を積極的に導入することにより克服しました。クリの栽培においては、耐雪性品種の選定に取組み、多雪地域におけるクリ栽

培技術を確立しました。

昭和六十三年から小国町森林組合の役員を務め、平成十九年度からは副組合長として地域の森林整備や林業の振興に貢献されてきました。

平成二十二年には、「森の名手・名人(国土緑化推進機構)」に、平成二十三年にはワラビに関する「地域特産物マイスター(日本特産農産物協会)」に認定されました。

舟山さんの長年の功績が認められ、平成十六年度に、日本特用林産振興会から「特用林産功労表彰」を、平成二十一年度、「川村造林記念山形県林業賞」、平成二十四年度に、「第五十一回農林水産祭 全国林業経営推奨行事 林野庁長官賞」を受賞されました。

これからも、林業・地域の振興に活躍されることを期待しております。



森の恵み起業塾「山菜技術研修会」
講師：舟山 勇氏 (H27. 3. 13)

〔置賜総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

森林施業プランナー

株式会社 佐藤工務

小関 孝尚さん



準備期間

庄内で活躍している森林施業プランナーを紹介します。

今回は、平成二十六年認定の株式会社佐藤工務の小関孝尚さんに質問を行いました。

①森林施業プランナーになつたきっかけ

当社は平成二十四年度から森林事業を開始し、集約化搬出間伐施業をメインに業務を行っております。

森林所有者からの同意を経て現場施業を行い、所有者への報告というプロセスをいかに効率よくスムーズに行えるか奮闘している折に、森林施業プランナーの認定制度があることを知りました。以前まで土木工事に携わっていた私にとって、森林業務に関わる知識等を身に着ける絶好の機会だと思い、資格を取得しようと思いました。

②これまで策定した森林経営計画

二件 百五十ヘクタール

③プランナーとしてのモットー

森林所有者の資産である森林を預かり、施業を行うものであることから、所有者の方々がやって良かったと思えるように、適正な森づくりや管理について提案・助言等を行い、森林所有者のよき代理人でありたいと努めています。

④プランナーとしての目標

色々な意味で日の当たる森林にしていきたいです。

所有者の方が次世代に継承していただきたいと思える林にしていこう。

そのためにも地域の方々との関係を深め協力し合い、また、私個人としても地域森林管理のために高い技術・知識を習得し実行していく。

これらにより森林・林業に対する関心を高め、大人から子供まで山に目を向けてもらえるようにしていきたいです。

小関さんは、他業種からの参入でしたが、これまでの経験も生かしたよい現場を作られています。

これからもプランナーとして益々のご活躍を期待します。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

◆はじめに

県民や企業の皆様に、森づくりや自然環境の保全活動に取り組んでいただく「やまがた絆の森プロジェクト」

も今年で六年目を迎え、現在、県内二十六箇所で開催による森づくり活動が行なわれています。今回は、九月二十六日に行われた(株)シェルターの今年度第二回目の活動と、十月十八日に行われた(公社)山形県トラック協会の活動について紹介します。

◆(株)シェルター

活動地は、山辺町北作地内の「シ



シェルター絆の森の看板前で記念撮影

エルター絆の森」です。(株)シェルターは、

平成二十二年から、豊かで美しい森づくり活動と里山の自然環境保全活動を目的に活動に取り組んできました。平成二十七年三月末に協定を再度締結し、今後引き続き、森づくり活動を行うことになりました。

今回の活動は、平成二十二〜二十三年度に植栽した箇所の下刈り作業を、社員と地元(公財)作谷沢振興会が協力し、約三十名で行いました。六月に実施した第一回目の下刈り以降、背丈ほどに雑草が伸びた箇所もあり、下刈り用の大鎌と刈払い機を用いて作業を行いました。森づくり活動も六年目となり、社員の方々も手慣れた様子で下刈りを行っていました。

◆公益社団法人山形県トラック協会

活動地は、山辺町畑谷地内の「山形県トラックの森」です。(公社)山形県トラック協会では、平成十七年から企業の森として活動を開始し、平成二十三年度からは、やまがた絆の森協定を締結し、四年間活動を行ってきました。今年八月末で協定が



会員と家族、一般参加者による植樹活動

満了となることから、九月一日、今後五年間の協定を再度締結し、森づくり活動による二酸化炭素の吸収・削減に向けた取り組みを継続することになりました。

十一年目を迎える植樹会は、会員とその家族をはじめ、来賓、一般の方など約五百名が参加しました。来賓者はオオヤマザクラの記念植樹、その他の参加者はブナをはじめ四種類の広葉樹四百五十本の植栽と施肥、昨年度まで植栽した植栽木への追肥を行いました。作業終了後、女性部が準備した山形名物の「いも煮」とおにぎりで交流を深めていました。

◆おわりに

県では、今後とも、森づくり活動を通して企業と地域の交流が深まり、地域の活性化に繋がるよう「やまがた絆の森」を推進していきます。

〔県みどり自然課〕

「実践的リスクアセスメント導入のための集団指導会」を開催します!

今回の指導会では林業の作業特質に配慮した取り組みやすい簡易版の学習を行います。

危険要因発見



平成27年11月9日(月) 酒田玉姫殿

(酒田市北新橋一丁目19-7)

11月27日(金) ホテルメトロポリタン山形

(山形市香澄町一丁目1-1-1)

お問い合わせは… 林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部
TEL:023-666-4810 FAX:023-666-4811

村山地域のみんなを支える森・みどり環境交付金事業 村山地域十四市町の森づくりの取組み

◆はじめに

一五九号に引き続き、村山総合支庁管内での各市町によるやまがた緑環境税事業を紹介いたします。

◆みどり環境交付金事業

「みどり環境交付金事業」は市町が、それぞれの地域課題解決のため、大きく四つの項目に別けて実施しています。

◇森林・自然環境学習

学校林や地域の森林をフィールドに様々な環境学習の取組みを行うので、管内では二十一の事業が行われています。七月に上市市が蔵王坊平を会場に行った「森林世代間交流事業」では、祖父母と孫、親子という違う世代間でいっしょに里山の散策や自然観察を行って



います。同じ体験を通して学ぶ喜びを共有した参加者の楽しそうな様子がうかがえます。

◇自然環境の保全活動

地域の里山環境に成育する希少野生生物の調査や生息地の保全活動を実施する事業で、管内では六事業が実施中です。大石田町で実施している「希少野生生物生息地保全事業」

では、ギフチョウ・ヒメギフチョウ生息地の森林整備を行い、生息地の保全と町民の環境意識の向上を図っています。

◇豊かな森づくり活動

村山管内の市町では、地域の特性、住民の要望等を踏まえた様々な森づくり活動を行っています。当管内では、住民や企業との協働による森づくりに取り組む事例が多く、十四事業が実施されています。

野生動物と共生するための緩衝林帯の保全活動については、実施主体となつている山形市、東根市、尾花沢市が、野生生物の成育場所と農作物生産地を分離する「緩衝林帯」を将来に渡って維持・保全していくため、地元自治会等との綿密な打合せを行い、計画的で安定した仕組みを構築し実施しています。

◇森林資源の利活用

森林を再生可能な環境資源として利用する取組みは、地域材をアピールする様々な内容の二十二事業が多く、市町で実施されています。

具体的には、公共施設での間伐材利用品の展示や児童施設の木製遊具の提供、小中学生が技術家庭科授業で使う



◆事業項目別村山地域みどり環境交付金事業実施市町一覧

事業項目	市町名(市町が取り組んでいる事業数)	事業数
森林・自然環境学習	山形市(2)、上市市(2)、天童市(1)、中山町(1)、河北町(1)、西川町(2)、朝日町(1)、大江町(1)、村山市(3)、東根市(2)、尾花沢市(5)	21事業
自然環境の保全活動	天童市(1)、朝日町(1)、大江町(1)、尾花沢市(2)、大石田町(1)	6事業
豊かな森づくり活動	山形市(2)、上市市(1)、山辺町(1)、中山町(1)、河北町(1)、西川町(1)、村山市(1)、東根市(4)、尾花沢市(1)	14事業
森林資源の利活用	山形市(5)、上市市(1)、天童市(2)、山辺町(1)、河北町(1)、寒河江市(2)、西川町(1)、朝日町(2)、大江町(4)、村山市(1)、尾花沢市(2)、大石田町(1)	22事業
計		63事業

木工材料の提供等により、住民に広く木材の良さを宣伝するものや、ペレットや薪ストーブ展示等、木質バイオマス燃料の普及啓発を行うものなどがあります。

◆村山地域森の感謝祭の開催

九月二十七日、天童高原を会場に「村山地域森の感謝祭」を開催しました。県民の方々や緑の少年団の参加により、オオヤマザクラやケヤキ、ブナ等一三〇本の植樹を行ったほか、式典では、永年、天童の自然環境保全活動等に御尽力された佐藤定四朗氏とボランティア活動による森づくり活動を続けている「天童・不思議の森」の皆様を、森林・林業功労者として表彰致しました。植樹や式典を通じて、参加者に対し、森を守り育てることの重要性を広く伝えることができました。

◆まとめ

一五九号で御紹介した「やまがた緑環境公募事業」の事例も併せ、村山地域では、官民で様々な森づくりの取組みが行われています。

この様な住民参加による森づくりの広がりが、森林に対する理解の深まりを経て、美しく住み良い郷土の創造につながるものと期待します。

〔村山総合支庁森林整備課〕

森林管理道「黒森会沢線」全線開通

完成に十年 成熟するスギ材を市場へ

林道黒森会沢線は、地元の熱心な要望を受け、平成十七年度から県代
行により事業を開始しました。今年
度に路線全線が開通する運びとなり
ましたので、その概要等をお知らせ
します。

◆概要

黒森会沢線は、上山市街地から北
西に約四キロメートルの上山市狸森
を起点（林道黒森山線）とし、既設
の旧黒森線と旧千丁金線を編入し、
市道小白府線に連絡する総延長八、
六四八メートル、全幅員四メートル
の二級自動車道で、総事業費は、約
四億九千万円を費やしました。利用
区域面積は三七二ヘクタールで、う
ち人工林面積が六割以上の二三五ヘ
クタール、蓄積量が約四万五千立方
メートルで、天然林面積が一三七ヘ
クタール、蓄積量が約千六百立方メ
ートルです。区域内の森林所有者は
一八七人で、元屋敷生産森林組合が
一四ヘクタールの面積を持ち、最も
大きい所有者となっています。
人工林のうちIV齢級以上が六割以
上の一四八ヘクタールを占めており、

林道による森林資源の活用が期待さ
れております。

◆経緯

平成十七年度に全体計画調査を
行い、当年度から工事に着手しま
した。

新規路線は、既設の二路線を大き
く取り込むことにより、一層機能
的な林道となるよう計画を立てま
した。

その結果、林野庁所管の地すべり



平成26年度施工区間

防止区域内を通過する路線になった
ため、技術的に工種工法を検討する
必要がありました。また、当地区は
地形が急峻なことから、法面対策に
思ったより経費が掛かりましたが、
これにより、近年のゲリラ豪雨等
も災害の少ない、比較的安定した路
線になりました。

林道黒森会沢線 事業費等の推移

年度	事業費(千円)	新設(m)	備考
H17	0	—	全体計画
H18	71,800	491	H17繰越+H18現年
H19	0	0	
H20	58,500	236	H19繰越
H21	—	—	
H22	64,000	322	
H23	108,475	559	H22繰越+H23現年
H24	0	0	
H25	89,502	306	H24繰越
H26	40,150	320	H25繰越
H27	56,019	702	H26繰越
合計	488,446	2,936	計 8,648m

※既設林道(BP側:黒森線+EP側千丁金線)5,712mを加え、総延長8,648m

◆スギ材を市場へ

県では、充実しつつある森林資源
の有効活用を図るため、「育てる林
業」から「使う林業」に軸足を移し
様々な施策を展開しています。

このような状況の中、当地区でも
この黒森会沢線を太い背骨とし、支
線となる林業専用道や作業道等を充
実させ、高性能林業機械等の導入を
促し、搬出コストを低減させ、当地
区の森林資源が建築用材や木質バイ
オマス資源として有効活用されるよ
う上山市をはじめ地元の皆様と協力
して、取り組んでまいります。

また、狸森地区は「山びこ学校」
で、映画化にもなった自然豊かな土
地柄であり、多くの方々がこの林道
を有効かつ安全に活用されることを
願っています。



木材集材・運搬の活用状況

〔村山総合支庁森林整備課〕

南陽市文化会館

(木造公共施設) オープン



◆ グランド OPEN

山形の豊かな森の恵みを生かした、全国初の大型木造耐火文化ホールの誕生です。建築の未来をえがく「日本の森のあたらしいカタチ」を全国に発信し、新たな市場開拓と地域経済の活性化につなげてまいります。



多くの関係者が文化会館を祝った記念式典

今後のスケジュール

- 2015年
- 10月 4日(日) 開館記念式典・祝賀会
 - 10月21日(水) 山下達郎コンサート
 - 10月24日(土) Every Little Thing コンサート
 - 11月 1日(日) 宝塚歌劇宙組全国ツアー公演
 - 11月26日(木) NHKごきげん歌謡笑劇団
 - 12月13日(日) 綾小路きみまろ爆笑スーパーライブ
- 2016年
- 2月21日(日) 山形交響楽団ユアタウンコンサート
 - 3月 5日(土) 宝くじふるさとワクワク劇場

◆ 林野庁長官賞を受賞

平成二十七年年度木材利用優良施設コンクールにおいて、南陽市文化会館が山形県では初めて林野庁長官賞に輝きました。地元産木材を積極的に活用した大型ホールを備えた木造耐火建築物として高い評価をいただきありがとうございます。

◆ 交流人口増へ「起爆剤」

市文化会館は、地元産木材の積極活用や置賜地域の交流拠点づくりを目指し、市役所南側約二・三畝の敷地に延べ床面積約六千平方メートル、地上三階地下一階の施設を建設。国内最先端の耐火木造技術を取り入れたスギ集成材を構造体に活用し、最大千四〇三人収容可能な大ホールをはじめ、五〇〇人収容の小ホール、展示ギャラリー、木育ひろばなどを備え、総事業費は約六億八千万円、全国初の大型木造耐火建築物がグランドオープンいたしました。



大ホール (収容人数1,403人)

しゅん工の神事に続く記念式典には、市内の芸術文化や商工業をはじめ各種団体の関係者、施工業者など約二二〇人に参加をいただきました。白岩孝夫市長は「人々の創造性をはぐくみ、地域の文化芸術を継承、創造、発信する文化拠点であり、交流人口拡大や経済活性化の起爆剤として活用していきたい」と式辞。引き続き、県警音楽隊のコンサートや東京おもちゃ美術館より世界各国の良質な「木のおもちゃ」が大集合。多くの方にホールに響く音色や木の温もりに触れ、木の魅力を体感するなど、しゅん工を祝いました。

〔南陽市みらい戦略課〕



JR藤島駅から徒歩五分にある六所神社は、古来、見満山万願寺六所権現と称されてきた名社です。祭神は大物忌大神、月山大神、出羽大神、由豆佐売大神、達賀大神で出羽国府の総社と言われています。境内のケヤキは、目通り周六・四五m、根周り七・二五m、樹高約二十五m、樹齢は約五百年と推定され、昭和四十九年六月一日に市の指定天然記念物に指定されました。

〔山形県森林協会〕



(案内略図)



正面



完成年度 平成26年度 (屋内施設)
 延床面積 2,677.35㎡ 木材使用量 771.5㎡
 構造 木造平屋建て

特徴 屋内施設には、赤ちゃんから12歳までを対象に遊具を配したベニっこホールのほか、あそびの大ホールやたもくてきルームなどがあり、保護者同伴の子どもが午前9時から午後7時まで利用できます。子育て支援センターの機能を有し保育士が常駐し、子育てに関する相談に対応しています。あそびの大ホールとたもくてきルームは午後10時まで子育て支援団体などへ有料で貸し出しもしています。

使用木材の8割に市産材を使い、床暖房により冬も素足で過ごせる施設となっていて、市内外からの多くの親子連れに利用されています。

また、平成27年度に完成した屋外施設にも遊具が備えられ、屋内・屋外に元気な子どもの声があふれています。

公共木造施設 89

山形市児童遊戯施設
 ベにっこひろば
 山形市樋越



あそびの大ホール

緑の宝、暮らしに活かそう大事な資源

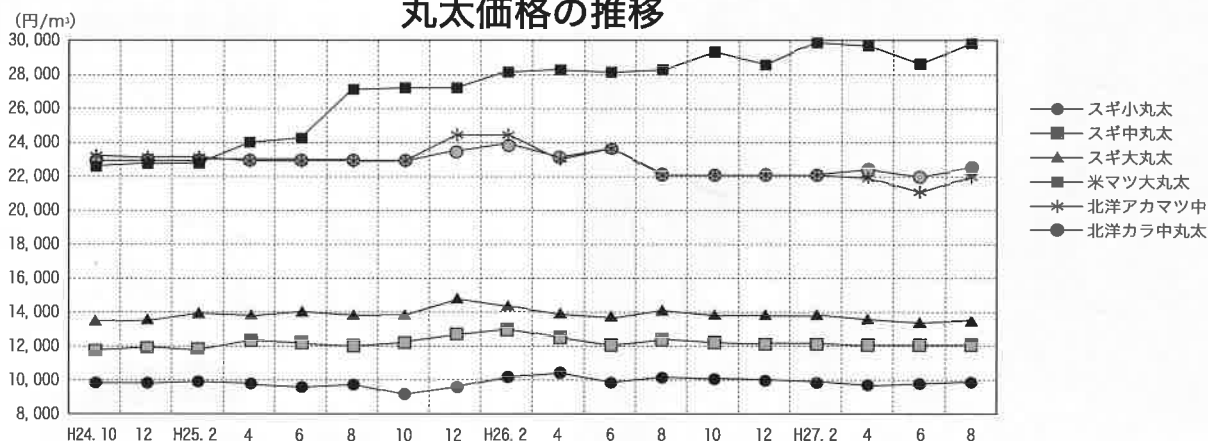
公益財団法人 山形県林業公社 理事長 細野 武司

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265番

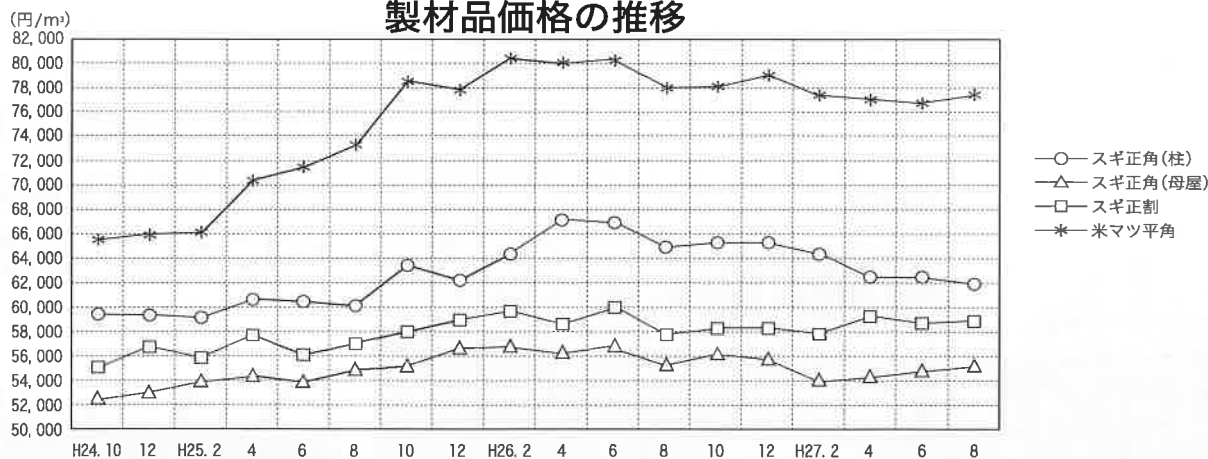
TEL 023-666-6348 FAX 023-689-9348 E-mail : y-ringyo@atlas.plala.or.jp

ホームページ : <http://business3.plala.or.jp/y-rkousy/>

丸太価格の推移



製材品価格の推移



土砂災害を防止・軽減するには
「治山施設」が必要です

森林を整備・利活用するには
「林道施設」が必要です

山形県森林土木建設業協会 会長 堀川 隆志

◇事務所：山形市あさひ町16-21 TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454

森林やまがた

一六〇号

平成二十七年十一月一日発行 (隔月発行)
編集・発行 山形市松栄一丁目五番四一号 山形県森林協会

監修

印刷所 山形県農林水産部
渡辺印刷

定価 二八八円